

特別講演 1

「個別化医療時代の動脈硬化予防・脂質異常症治療

：動脈硬化リスク因子としての高トリグリセライド血症」

金沢大学附属病院循環器内科助教

多田 隼人 先生

冠動脈疾患に対する LDL-C 低下療法は広く普及していると言える。逆に普及しすぎて冠動脈疾患患者にスタチンを投与すれば脂質に対するケアは終了、という感覚が蔓延していることを懸念する。冠動脈疾患に関連した「脂質」は非常に幅広く、LDL-C のみならず、TG、レムナントコレステロール、Lp(a)、脂肪酸、場合によっては HDL-C などもケアすべきである。これらのトータルマネジメント抜きにして、残余リスクは語れないと考える。本講演では、冠動脈疾患にスタチン、のような言わば one-fits-all の考え方に警鐘を鳴らし、脂質低下療法においても遺伝学も加味した丁寧な個別化医療を目指す、という一見地味だが非常に重要かつ先進的な考え方をお示ししたい。また、疫学研究、臨床研究、遺伝学的研究からはトリグリセライドは介入すべき、動脈硬化の causal factor であることが強く示唆されているものの、実際には未治療例がまだまだ多い。ぜひ徹底した脂質低下療法・個別化医療を提供しませんか？